

September 3, 2019

**【前日の為替概況】ユーロドル、2年3カ月ぶり安値 米中摩擦が欧州に及ぼす悪影響を懸念**

2日のニューヨーク外国為替市場でユーロドルは6日続落。終値は1.0970ドルと前営業日NY終値(1.0982ドル)と比べて0.0012ドル程度のユーロ安水準だった。米中貿易摩擦が欧州経済に及ぼす悪影響が懸念されてユーロ売り・ドル買いが先行。12日の欧州中央銀行(ECB)定例理事会では、これまでの予想よりも大きな幅での利下げを決定するとの観測が浮上し、欧州市場序盤に一時1.0958ドルと2017年5月中旬以来約2年3カ月ぶりの安値を付けた。

もともと、NY市場では狭いレンジでのみ合いに終始した。この日は米国市場がレーバーデーの祝日で休場。NY時間の商いは総じて閑散とし、様子見ムードが広がった。

ドル円は小幅ながら続落。終値は106.24円と前営業日NY終値(106.28円)と比べて4銭程度のドル安水準だった。中国商務省は2日夜、米国が1100億ドル分の中国製品に1日から15%の追加関税をかけた措置に対し、世界貿易機関(WTO)に提訴すると発表。さらに「米中両国の通商交渉担当者は今月予定している会合日程を設定できていない」との一部報道が伝わり、米中貿易摩擦への懸念が高まった。時間外のダウ先物が再び300ドル近く下落し、ナイト・セッションの日経平均先物が失速したことも相場の重しとなり、1時30分過ぎに一時106.06円付近まで下押しした。なお、オフショア人民元は対ドルで一時7.1957元と史上最安値を付けたほか、対円では14.74円まで弱含んだ。

ユーロ円は続落。終値は116.53円と前営業日NY終値(116.83円)と比べて30銭程度のユーロ安水準。米中貿易摩擦の激化・長期化が懸念され、リスク回避の円買いが進行。週明け早朝取引で付けた安値116.41円を下抜けて、一時116.35円と日通し安値を付けた。

ポンドは軟調。英議会の再開を明日3日に控えて英政局の先行きに対する警戒感がポンド売りを誘った。ポンドドルは一時1.2036ドル、ポンド円は127.88円、ユーロポンドは0.9109ポンドまでポンド安に振れた。なお、英国の欧州連合(EU)離脱を巡り、ジョンソン英首相は離脱延期をEU側に要請する可能性を排除し、議会が「合意なき離脱」を阻止すれば、「総選挙の実施を余儀なくされる」との考えを示した。

**【本日の東京為替見通し】ドル円 中国 WTO 提訴が上値限定、豪ドル・ポンドは乱高下の可能性**

本日の東京市場のドル円は、上値の重い推移するか。東京時間の昨日夜に中国商務省が、米国が1100億ドル分の中国製品に1日から15%の追加関税をかけた措置に対し、世界貿易機関(WTO)に提訴すると発表した。中国がWTOに提訴したことで、トランプ米大統領が中国に対しより態度を硬化することが予想される。9月の米中通商協議に対しても不透明感が拭えなくなったことが、ドル円の頭を抑えそうだ。中国にとっても通商摩擦以外に、香港情勢などの不安材料があることで、西側諸国に対する強気姿勢を崩すこともできず、通商協議を楽観視するのは難しいだろう。

ドル円は上記のように、通商摩擦が最大の注目点のため、米中の要人発言のヘッドライン以外は取引材料に欠けるが、本日はドル円以外の取引材料には事欠かない。

東京時間13時半には豪準備銀行(RBA)が政策金利を発表する。市場予想は1.00%の据え置きとなっているが、前回8月会合の議事要旨でも「低金利が長期にわたって続くと予想」との見方が示され、デベルRBA副総裁も講演で「望むわけではないが、政策金利の下限は0-0.5%付近となる可能性が高い」との見解を述べ、RBAがハト派姿勢を崩すことは無さそうだ。予想通りの据え置きでも、同時に発表される声明文次第で豪ドルは大きく動く可能性もある。また、明日4日に発表される4-6月期の豪国内総生産(GDP)が、一部ではマイナスになるとの予想もあることで、この数日は豪ドルの動きに警戒したい。

欧州通貨の値動きも激しくなりそうだ。ユーロは対ドルで、連日年初来安値を更新しているが、本日の最大注目材料は英政権を巡るポンドの値動きになりそうだ。

本日から英議会が再開されるが、ジョンソン英首相は多くの英議員が早期再開を提言していたのにもかかわらず、無視をしていたこともあり、来週予想通りに議事を閉会した場合は5-6日程度の開会期間しかない。この短い期間に最大野党・労働党のコービン党首は、合意なきブレグジットを阻止する法案の提出をするように働きかける可能性が高い。また、この法案に与党・保守党内で賛成に回った議員に対して、ジョンソン首相は次期総選挙では保守党から除名するとした。そして10月の総選挙の可能性も示唆している。英ブックメーカーも10月の総選挙実施が一番高い確率となっている。これらの英国の政治情勢でポンドは乱高下する可能性が高い。

## 【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

## &lt;国内&gt;

○08:50 ◇ 8月マネタリーベース

## &lt;海外&gt;

- 08:01 ◇ 8月英小売連合 (BRC) 小売売上高調査 (予想: 前年同月比 0.5%)
- 10:30 ◇ 4-6 月期豪經常収支 (予想: 14 億豪ドルの黒字)
- 10:30 ◇ 7月豪小売売上高 (予想: 前月比 0.2%)
- 13:30 ☆ 豪準備銀行 (RBA) 政策金利発表 (予想: 1.00%で据え置き)
- 15:30 ◎ 8月スイス消費者物価指数 (CPI、予想: 前月比▲0.1%)
- 16:00 ◎ 8月トルコ CPI (予想: 前月比 1.30%/前年比 15.51%)
- 17:30 ◎ 8月英建設業購買担当者景気指数 (PMI、予想: 45.9)
- 18:00 ◎ 7月ユーロ圏卸売物価指数 (PPI、予想: 前月比 0.2%/前年比 0.2%)
- 18:30 ◎ 4-6 月期南アフリカ国内総生産 (GDP、予想: 前期比年率 2.4%/前年同期比 0.8%)
- 22:45 ◎ 8月米製造業 PMI 改定値 (予想: 50.0)
- 23:00 ☆ 8月米 ISM 製造業景気指数 (予想: 51.1)
- 23:00 ◇ 7月米建設支出 (予想: 前月比 0.3%)
- 4日 06:00 ◎ ローゼングレン米ボストン連銀総裁、講演

## 4日

## &lt;国内&gt;

- 09:50 頃 ◎ 黒田東彦日銀総裁、あいさつ
- 10:30 ◎ 片岡剛士日銀審議委員、あいさつ

## &lt;海外&gt;

- 10:30 ☆ 4-6 月期豪 GDP
- 10:45 ◎ 8月 Caixin 中国サービス部門 PMI

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

## 【前日までの要人発言】

2 日 15:28 ホルツマン・オーストリア中銀総裁  
「欧州中央銀行(ECB)の追加緩和には懐疑的」

2 日 22:13 中国商務省  
「米国の追加関税は、大阪サミットの米中首脳会談で決定された合意を破るもの」

3 日 00:47 ノバク露エネルギー相  
「イランと共同エネルギー開発について協議」

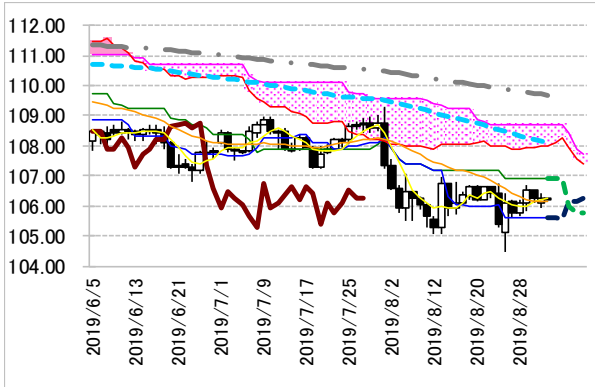
3 日 01:07 ペンス副大統領(アイルランドにて)  
「アイルランドと英国の安定的な関係を推し進める離脱案を支持する」  
「アイルランドの特別な要求をより理解するように努める」

3 日 02:02 コンテ伊暫定首相  
「五つ星運動と民主党は共通な認識を明らかにした」  
「減税を実施するために財政政策に一身に取り組む」

3 日 02:13 ジョンソン英首相  
「ブレグジット延期は無益」  
「私は総選挙を望まない」  
「10 月 31 日までに EU を離脱しよう」

※時間は日本時間

## 〔日足一目均衡表分析〕

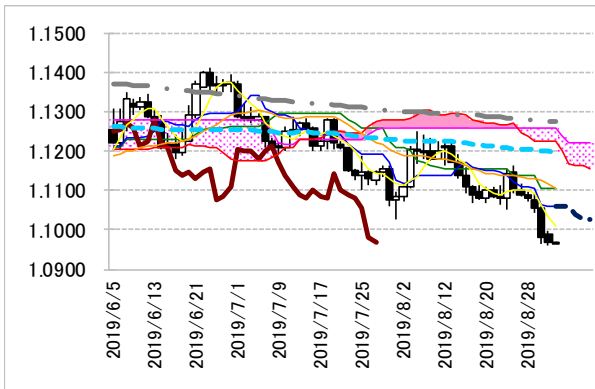


### <ドル円=5・21日線が下げ止まり、やや上寄りの動き想定>

小陽線引け。一目均衡表・転換線と基準線の交差が想定される106円付近でもみ合いつつ、次に上下どちらへ振れるか探る状態にある。

目先の重しになっていた21日移動平均線に下げ止まりの兆候が感じられる。本日、同線は106.17円前後で推移。目先のすう勢を示す5日線も106.28円前後で上昇傾向となっている。転換線と基準線に挟まれたレンジのなかで、やや上寄りの相場展開になりそうだ。

レジスタンス2	107.21(7/18 安値)
レジスタンス1	106.89(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	106.24
サポート1	105.60(日足一目均衡表・転換線)

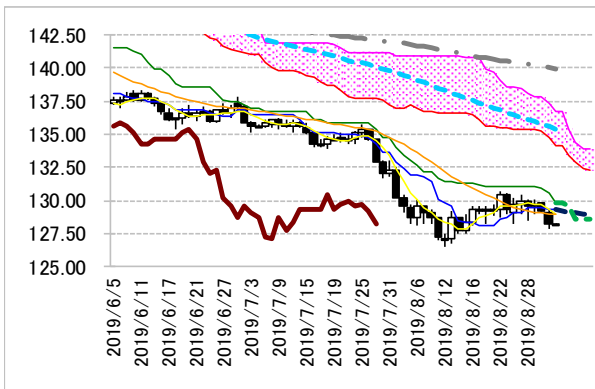


### <ユーロドル=戻り5日線前後までか>

小陰線引け。2017年5月以来、約2年3カ月ぶりの1.1ドル割れ水準でも戻りは鈍く、さらなる下方リスクが懸念される状態にある。

低下継続が見込まれる一目均衡表・転換線以外に、目先のすう勢を示す5日移動平均線も1.1011ドル前後で大きめな角度をつけて低下中。5日線付近でさえ戻りが鈍いことが確認できれば、下攻めムードがさらに強まるだろう。

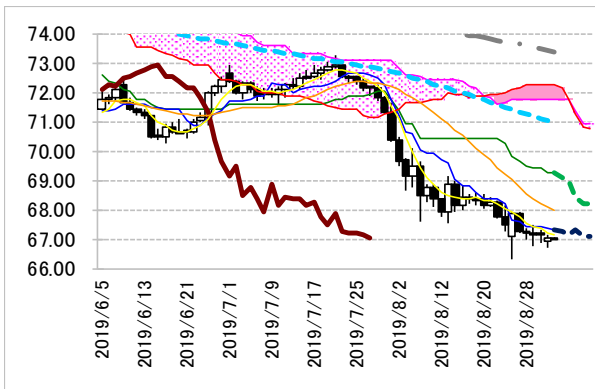
レジスタンス1	1.1017(ピボット・レジスタンス2)
前日終値	1.0970
サポート1	1.0906(2017/3/27 高値)



### <ポンド円=転換線に加えて基準線が低下を強め抵抗に>

下影陰線引け。緩やかに低下へ向かう一目均衡表・転換線付近が重く、再び下値を探り始めた。現在129.29円に位置する転換線に加えて、一目・基準線も低下を強め、やがて転換線以下へ水準を下げる見込み。抵抗の切り下がりが戻りを鈍くするだろう。

レジスタンス1	129.00(5日移動平均線)
前日終値	128.19
サポート1	127.48(8/15 安値)



### <NZドル円=売り示唆の指標が多く、年初来安値更新を意識>

下影小陽線引け。67円前後の安値圏でもみ合った。67.31円に位置する一目均衡表・転換線が目先の重しとなっているほか、やや上の67.98円前後で低下中の21日移動平均線が抵抗。一目・基準線も現水準69.28円から、来週にも68円割れまで急低下する見込みで、売り優勢の展開を示唆。8月26日の下振れでつけた年初来安値66.32円の更新が意識される。

レジスタンス1	67.41(ピボット・レジスタンス2)
前日終値	67.01
サポート1	66.32(8/26 安値=年初来安値)

